

令和8年産 「くるめの特別栽培米(ヒヨクモチ)」づくり基準

望まれる「福岡の米」づくりの推進

- 種子更新率100%
- 健全な土づくり
 - ①堆きゅう肥
 - ②土壌改良資材の投入
 - ③深耕
 - ④稲・麦わらの投入
- 安心な米づくり
 - ①減化学合成農薬栽培
 - ②減化学肥料栽培(完熟堆肥・有機入り肥料)
- 気象変動に左右されない米づくり(基本技術の励行)

土づくり・適期移植・水管理の徹底・中干しの徹底・適期落水
- 高品質な米づくり
 - ①生育に応じた施肥
 - ②適期収穫
 - ③適正な乾燥・調製

農薬の使用に当たっては、以下のことに気を付けてください。

- ①農薬の使用基準を守ってください。
- ②防除日誌を記帳して防除記録を残してください。
- ③農薬を散布するときは、風の有無を確認し、散布機圧力を調整するなど周辺の作物に農薬が飛散しないよう十分注意してください。

生育	水管理及び主な作業	施肥及び農薬散布(例)
5月	育苗期	
5月下旬	・播種(催芽粒150g/箱)	・温湯消毒済種子使用 けい酸加里 40kg/10a 完熟堆肥投入 1t/10a
6月上旬	・土づくり、麦わらのすき込み	・育苗期間は農薬を使用しない
6月中旬	・基肥	・新スーパーユーキくん1号 50kg/10a
6月下旬	・耕起、代かき	・フェルテラセクサロン箱粒剤 50g/箱
7月上旬	・箱施薬剤、移植	・オイカゼZ1キロ粒剤 (移植時~12日) 1kg/10a
7月中旬	・浅水管理	
7月下旬	・除草剤散布	
8月上旬	・浅水管理	
8月中旬	・間断かん水	
8月下旬	・中干し開始(葉数18本/株より)	・黒乾で小ひびが入る程度
9月上旬	・間断かん水	
9月中旬	・穂肥(1回目)	・スーパーユーキくん3号 1回目 30kg/10a
9月下旬	・穂肥(2回目)	・スーパーユーキくん3号 2回目 20kg/10a
10月上旬	・出穂	・本田防除は、病害虫の発生状況に応じて実施する。
10月中旬	・落水管理	
10月下旬	・間断かん水	
11月上旬	・落水(収穫7日前)	
11月中旬	・収穫	
11月下旬	・耕起、稲わらすき込み	

品種特性表

※出穂期・成熟期は6月20日移植のデータ。その他は、品種特性表に基づく。

熟期	品 種 名	出穂期 月・日	成熟期 月・日	穂長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	耐 伏 性	倒 芽 性	外 観 質	食 味	10a当り 玄米量 kg/10a	耐 病 性
晩 生	ヒヨクモチ	9・6	10・26	69	19.1	394	極 強	難	上 下	上 下	546	いもち 白葉枯 やや弱 中

特別栽培米施肥基準

施設設計

(10a当り施用量)

堆きゅう肥	土壌改良資材	基 肥	施用量	穂 肥	施用量
土力目標 1トン	けい酸加里 40kg	新スーパーユーキくん1号 10-6-6 (有機51%)	50kg	スーパーユーキくん3号 10-3-8 (有機51%)	30kg 20kg

※大豆などとは、地力に応じて基肥を減量する。

緩効性肥料による1回全量施肥

(10a当り施用量)

堆きゅう肥	土壌改良資材	基 肥	施用量
土力目標 1トン	けい酸加里 40kg	有機エムコート355 13-5-5 (有機50%) 120日タイプ	75kg 55kg

農薬使用基準

※野菜等、周辺作物に飛散すると被害を生じるほか、残留農薬により出荷できなくなるため、十分注意して防除を行う。

1.病害虫防除(箱施薬)

農 薬 名	化学合成農薬	使用量	使用時期	対 象 病 害 虫
フェルテラセクサロン箱粒剤	2	1kg/10a (50~100g/箱)	は種時(覆土前)~移植当日	コブノメイガ・ウンカ類他

2.雑草防除

(被害が出やすい状態)

時期	農 薬 名		化学合成 農薬	10a当り 使用量	使用時期 (移植後日数)	ノビエ
初・ 中期	オイカゼZ	1キロ粒剤	2	1kg	移植時～12	3.0葉期まで
		ジャンボ	2	400g	5～12	3.0葉期まで
	ブライオリティ	1キロ粒剤	2	1kg	移植時～14	3.5葉期まで
		ジャンボ	2	250g	移植直後～14	3.5葉期まで
	ゼータプラス	1キロ粒剤	2	1kg	移植時～16	4.0葉期まで
		ジャンボ	2	200g	3～16	4.0葉期まで

※除草剤使用後は最低4日間湛水状態を保ち散布後7日間は落水、かけ流しをしない。

3.本田病害虫防除

※農薬によるミヅバチへの危害防止のため稲の開花期に農薬の使用は避ける。
※病害虫防除基準は周辺農家の使用を前提としているため、周辺農家は必ず規定量を使用すること。また、トビロウワカ対策として葉に付着している箱施薬剤が有効です。

ヘリ防除

使用時期	農薬名	化学合成農薬	使用液量(10a)	希釈倍率	対象病害虫
8月中旬 9月上旬	オーケストラフロアブル	1	800ml	8倍	ウンカ類幼虫
	スタークル液剤10	1	800ml	8倍	ウンカ類・カメムシ類
	バリダシンエアー	0	800ml	8倍	紋枯病
乳 熟 期	スタークル液剤10	1	800ml	8倍	ウンカ類・カメムシ類

粉剤粒剤防除

使用時期	農薬名	化学合成農薬	使用量(10a)	対象病害虫
8月中旬~9月上旬 出穂期まで	ダブルカットバリダシン液剤30L	2	4kg	ウンカ類・紋枯病・いもち病
出穂30日前~ 5日前まで	コラトップ1キロ粒剤12	1	1~1.5kg	いもち病
収穫7日前まで	スタークル粉剤DL	1	3kg	ウンカ類・カメムシ類

液剤散布防除

使用時期	農 薬 名	化学合成農薬	使用量(10a)	対象病害虫
8月中旬 9月上旬	オーケストラフロアブル(収穫7日前まで)	1	1000倍液を60~150ℓ	ウンカ類幼虫
	スタークル液剤10(収穫7日前まで)	1	1000倍液を60~150ℓ	ウンカ類・カメムシ類
	ダブルカットバリダシン液剤(穂期まで)	1	1000倍液を60~200ℓ	いもち病・紋枯病
補正防除	スタークル液剤10(収穫7日前まで)	1	1000倍液を60~150ℓ	ウンカ類・カメムシ類

※本田防除は、病害虫の発生状況に応じて実施する。

※カメムシ対策として出穂14日前までに畦草刈りを実施する。

※農薬成分のバリダマイシンおよびカスガイマイシンは化学合成農薬のカウントから除外されます。

収穫・乾燥調製上の注意点

- ・適期収穫：籾水分22~29%
- ・早期落水は絶対にしない
- ・乾燥玄米は水分14~15%

記載農薬は、令和7年12月の登録内容に基づき記載しています。農薬の登録は、随時変更されていますので、農薬を使用する際には、再度、包装容器・袋に記載されている有効期限および登録内容を確認して下さい。

久留米市農業振興協議会

JAくるめ本店営業事業部
33-3671

東部営業センター
45-0345

西部営業センター
26-4111

久留米普及指導センター
47-5101

久留米市生産流通課
30-9164

JAくるめ ホームページ <http://www.ja-kurume.or.jp>

R.8.1作成